

刈谷の景観をチェックしてみよう！

実際に講座で学んだ視点で、刈谷のまちを見てみましょう。講座に参加できなかった人も、いっしょに身近な景観を考えてみて下さい！あなたの身近なまちなみも、明日から違って見えるかも！？

居心地のいい
休憩スペースを探そう！



道路沿いの休憩スペースは、舗装にアスファルトではなく、石が使われています。ベンチの周りには木が茂っていて、空気も良さそう！通りを行き交う人々や道路を挟んだ反対側のお店を眺めつつ、のんびりできそうですね。

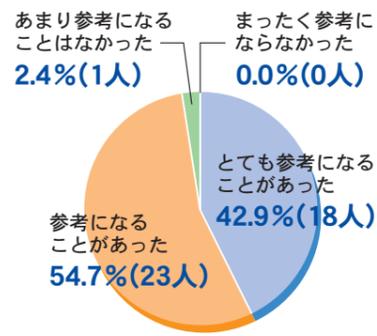


おいしい！もう一息！！木のそばのベンチは、夏には木陰ができて快適そうですが、背後を走る車や目の前を通る人を気にしないで座れるのもっといいですね。

参加者の声

講座終了後、参加者の方にアンケートへご協力いただきました。ここでその結果の一部をご紹介します。

今後の景観づくりの参考になることはありましたか？



どんなことが参考になりましたか？

- 景観についての基本的なことがよくわかった。限られた範囲の景観づくりより、まち全体の景観づくりとなると大変なことだと思った。
- 視点をどこに置いてまちづくりや景観を考えていったらよいか、よくわかった。
- 景観の見方、景観の大事さ、景観づくりの工夫。まちづくりに参画する意欲・きっかけになる。
- 集客に役立つまちづくりが大切。必ずしもお金をかけることが大切ではない。
- 店、住民の協力が第一であるが、信頼できるリーダーに恵まれること、また官・民の協力が重要だと痛感した。
- 観光地として大切なことがそろっていた。景観とは、自分の好みだけを考えて行うのではなく、地域、道路の安全、周囲との調和も考えることの大切さを学んだ。
- 地域やまちの景観ばかりではなく、個人の家にも参考になることがあった。
- 人も車も大切にされるまちづくりが必要だと思う。景観は安心できるもの。買物をしたり、休んだり、花、木が多い場所もほしい。



デラックストイレが有名な刈谷ハイウェイオアシス。ベンチにもしっかりと気配りされています！通行する部分とは舗装が違って、休憩スペースが独立した空間となっています。



入ってみたいくなる
お店を探そう！

お店の入口前に花や木、看板などがあって、楽しそうな雰囲気です。歩き疲れたらいつでも休めるから、いすが置かれているところもポイントが高い！



かりや 景観れぽーと

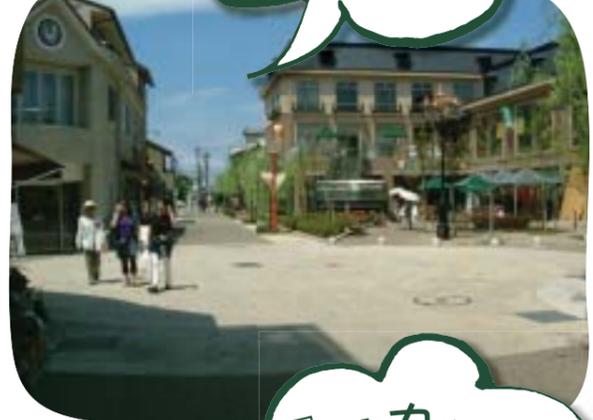


よい景観って
何だろう？

景観の
身に見方
をつけよう！



景観づくりの
ポイントって？

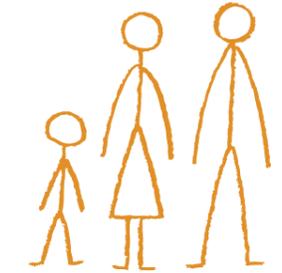


『魅力的な
景観づくり』

今回の景観れぽーとは、『魅力的な景観づくり』と題して、景観の見方についてご紹介します。

平成19年11月、毎年実施している「かりや景観づくり講座」*の一環として、景観の第一人者である堀先生を講師にお招きし、彦根藩35万石の城下町として有名な彦根市で「景観まちあるきin彦根」を開催しました。

良い景観の見極め方や景観づくりのポイントについて堀先生に教わりながら、一緒に景観スポットを歩いてまわり、具体的に景観づくりの事例を学びました。景観づくりに精力的に取り組んでいるまちを見て、刈谷の景観をもっともっと良くしていくアイデアをたくさん見つけることができたようです。



また、今回の景観れぽーとの最後には、堀先生に教わった景観の基礎を踏まえて、刈谷の景観チェックを掲載しています。みなさんも、いつも目にするまちなみへの見方をちょっと変えて、美しい景観づくりについて考えてみませんか？

*かりや景観づくり講座:市民のみなさんに景観形成に対する意識をより高めてもらい、みなさんの手による都市景観づくり活動や、美しい都市景観の創出につながる機会としていただくことを目的に、平成15年度から毎年開催しています。

景観まちあるき in彦根

東京大学教授の堀繁先生を講師に迎えて、景観づくりの基礎のお話を伺いながら一緒にまちを歩いてまわり、具体的な景観づくりについて学びました。

三二解説「景観の見方を身につけよう！」

車窓からの眺めを題材にしつつ、景観の見方や基礎について教わりました。

「景観」ってなに？

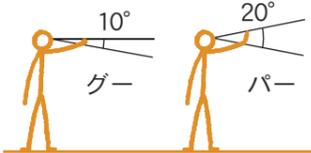
景観とは、見ること、見ることによって生まれる視覚像のこと。でも…人は目に映るものすべてを等しくは見ていないのです！

じゃあ、なにを見ているの？

私たちは二つのもの、つまり「見たいもの」と「見やすいもの」を重視して見えています。
●見たいもの……何の景観なのか手がかりを与えてくれるもの
●見やすいもの…程よい大きさで見えるもの

「程よい大きさ」って、具体的には？

手を伸ばした状態でこぶしが、「グー」から「パー」の間の大きさ(見込角が10°～20°の間)で見えるもの。



景観の本質をふまえ、不安定なバスの中にも関わらず、参加者から見えやすい場所に立って、わかりやすくお話をしてくださいました。

講義その1「良い景観は何だろう？」

彦根市内の会場にてスライドを見ながら景観についての理解を深めました。

良い景観とは？

「見やすい」と「私を大事にしている」というふうに見えること。
「見たいものが見やすい」と、「私のことを大事にしてくれるように見える」とこと。

写真1と写真2のどちらのまちに行きたいですか？その理由は？

写真1は、「見たいもの」(城)が他のもの(電柱やビル)よりも相対的に小さく、さらに電線などに邪魔されて、よい景観だと感じません。自分が見たいものが相対的に一番大きくないと嫌なのです。
写真2は、見たいもの(教会)が見やすい大きさ(グーからパー)でしかも家並みよりも大きく見え、また、他のものに邪魔されていないのでよい景観だと感じます。



写真1



写真2

▶ 見たいものが「見やすい」状態にあるのが良い景観です。城や教会といった建物の良し悪しではありません。建物は小さくてもよいのです。

もう一つのポイント「私を大事にしている」ってどういうこと？

まちを構成する二大要素「道」と「沿道の建物」に、人を大事にする表現があふれていること。例えば、歩きやすい歩道、居心地の良い休憩スペース、店舗前に置かれた花や照明、のれんといった人をもてなす表現が重要です。

写真3と写真4のどちらの場所に行きたいですか？



写真3



写真4

写真3は世界遺産ですが、駐車場に立って見えています。写真4は、ヨーロッパにはよくある古い城ですが、重要なのはその古城を、「座って見られる」ということです。木のデッキでイスに座って、ゆったりとコーヒーを飲みながら、また、友人と語りながら見られる方が気持ち良いですね！

▶ 休憩スペースの質の高さは「人間を大事にしている」証しです。

景観まちあるき

午後は、堀先生とアシスタントの堀温子さんと一緒にまち(四番町スクエア・夢京橋キャッスルロード周辺)を歩いてまわって、良い景観づくりの事例を学びました。



早速、習ったばかりの「グーからパー」をみんなで実践して、景観をチェックしています！



実際のまちなみを見て、まずいいか悪いかを自分で判断してから、先生から具体的な景観の見方を教わりました。



よく見かけるベンチひとつとっても、おもてなしの心をきちんと伝えるには工夫が必要です。難しい！！

講義その2「景観づくりのポイント」

まちあるきの後に再び彦根市内の会場に戻り、景観づくりについておさらいをしました。



人は上よりも下を見て歩いているので、屋根よりも入口の舗装が大事。彦根ではそこに工夫があります。



大きなのれんは、「あなたのことをお迎えしますよ、どうぞお入りください！」というメッセージ。



本来見たくないものがむき出しで見えないよう、丁寧なつらえで整えられています。



ベンチ周りの舗装は歩く部分とは異なっていて、歩行者を気にしないで落ち着いて座れます。

夢京橋キャッスルロード

現在の夢京橋キャッスルロードがある彦根市本町は、慶長8年(1603年)彦根城築城とともに城下町の町割りがこの本町から始められたという歴史あるまちでした。

道路幅6m、当時の風情を残しながら現代に至ったこのまちは、世の中の近代化と効率化に取り残され、昭和60年(1985年)都市計画道路本町線の街路整備を実施することになり、この通りの風情を壊すことなく伝統的なまちなみを再生することにより、活性化を図ることになりました。

このまちづくりの特徴は住民主導で行われ、歴史と伝統を今に活かし、建物の形態と色彩を新しい時代にマッチした城下町づくりにあったと言えます。平成11年(1999年)にすべての整備を終えて生まれ変わりました。



四番町スクエア

夢京橋キャッスルロードに隣接するエリアにあり、大正ロマン漂う新しいまちです。かつては彦根の台所としてにぎわってきた旧市場街商店街でしたが、郊外化が進む昭和40年代以降空洞化が進み衰退していきました。

そこで、住民が主体となってまちづくりを推進し、平成18年(2006年)に「四番町スクエア」としてグランドオープン(街開き)しました。

ガス灯が映えるまちなみは古き良き大正ロマンを再現しているほか、音のまちづくりとして心を落ち着ける効果のある環境音が流れています。



堀 繁 先生 (東京大学アジア生物資源環境研究センター教授)

- 専門：景観デザイン、景観工学、計画設計思想史、地域計画
- 主な経歴：環境庁自然保護局主査、東京大学農学部助手、東京工業大学社会工学科助教授などを経て、平成8年3月より現職。
国土審議会、歴史的風土審議会の各専門委員の他、建設省「道路環境計画」、農水省「日本の美しい村景観コンテスト」、水産庁「美しい漁村づくり」、環境庁「日本の音風景100選」、国土庁「地方振興方策のあり方に関する検討」、日本道路公団「高速道路景観整備実践マニュアル」など、国、公団、地方公共団体等の各委員会座長・委員等を歴任。

